

みどりのこえ

冬号
2009



No.39

長野県環境保全研究所

平成21年(2009年)12月25日発行

●飯綱庁舎 〒381-0075 長野市北郷 2054-120 TEL.026-239-1031 FAX.026-239-2929
●安茂里庁舎 〒380-0944 長野市安茂里米村 1978 TEL.026-227-0354 FAX.026-224-3415
URL: <http://www.pref.nagano.jp/xseikan/khozen/> E-mail: kanken-shizen@pref.nagano.jp

自然と結ぶ文化

文・写真 松田 松二

現役を退く時、「さあ、これで綺麗さっぱり、全てを消し去って……」等と思ったものですが、いざとなると自分に捨てる程の蓄積など、無いことに気づきました。結果的に今はリセットされた状態にあります。そうなってみると、周囲は神秘と感動に満ち溢れています。野の小さな花に出会うと、その美しさを愛でる前に、先ずその神秘さに打たれます。理論らしいものを全部お返しして、リセットされた人間にとっての反応は「感動することしかありません。

比叡山の千日回峰行者のお伴をさせて頂いた事があります。お許しを頂くまでに2年程かかりました。出峰は午前2時でした。それから朝の八時頃までに30数キロに及ぶ峰や谷で行者さんは木の間をすり抜けながら、三百余箇所山川草木を拝んで居られました。一切のものを拝み続けることは法華経の中に説かれていると聞きました。「山川草木悉有仏性」という訳です。拝んでおられるお姿の中に日々の新しい出会いの「感動」が含まれていると遠察しました。こういった姿勢の中に理論以前の自然保護や環境保全の原点を見たような気がします。

2年程前に、比叡山延暦寺瑠璃堂（織田信長の焼き討ちに際し、焼け残った唯一のお堂）の御本尊を彫り参らせました。無我夢中で鑿を振るい、終わってみると、予め木の中に居られた仏が御自分の方から勝手に現れて下さったような気がしています。今にして思うと、回峰行者さん達には、山川草木の中に仏の姿がはっきりと見えていたのだと思います。だとすれば、何たるコミュニケーションでしょう。

自然保護や環境保全にとって、専門の谷を越えた協力や戦略が必要であることは当然ですが、その大前提とし



奥山にひっそりと咲くトガクシソウ

て自然との間に、深いコミュニケーション力が期待されます。

こうしたコミュニケーションを計る程に、自然は文化の規範であり、自然を離れると文化は墮落することに気づかされます。オリンピックとてその例外ではありません。その意味で、自然と結ぶ文化、自然と結ぶ冬季オリンピックを標榜した長野は全世界に高雅な見識を示したものと思います。旧自然保護研究所（現環境保全研究所飯綱庁舎）も、そんな一連の流れの中に建設されたものであり、これからもその責任と期待が寄せ続けられることでしょう。

（まつだまつじ

／信州大学名誉教授・元自然保護研究所特別研究員）

Contents

【巻頭言】 自然と結ぶ文化	1	サブテーマ5 動物用移動経路における動物の利用実態	7
【特集】 長野冬季五輪がめざした「自然との共存」	2	サブテーマ6 競技会場や道路整備のその後	8
サブテーマ1 表土を活用した緑化工のその後は？	3	八方尾根はどうなった？	9
サブテーマ2 クロスカントリー会場跡地とその周辺の猛禽類	4	【こんなことやってるよ！】活動紹介 茅野ミヤマシロチョウの会	10
サブテーマ3 河道切り替え後の河川環境の復元	5	【こんな本みつけた！】読書案内 『足もとの自然から始めよう』	10
トンネル排水の影響	5	【フィールドノートから】国際イワナシンポに参加してきました	11
サブテーマ4 白馬村のギフチョウ生息地の保全	6	お知らせ 公開セミナーの予定ほか	12